

安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。 出エジプト 20:8 節

いつか、青少年キャンプで十戒のアンケートを取りました。守っていない戒めで、一番多かったのが、この第四戒と第五戒「父と母を敬え」でした。それにしても、日曜礼拝を守るという事は、ささいな事なのでしょうか？民数記 15 章 32～36 節には安息日を守らないでたきぎを取りに行った人は、捕まって神の命令により殺されました。読んでみましょう。

「イスラエルの子らが荒野にいたとき、安息日に薪（たきぎ）を集めている男が見つかった。薪を集めている者を見つけた人たちは、その人をモーセとアロンおよび全会衆のところに連れて来た。しかし、その人をどうすべきか、はっきりと示されていなかったので、彼を留置しておいた。すると、主はモーセに言われた。『この者は必ず殺されなければならない。全会衆は宿営の外で、彼を石で打ち殺さなければならない。』そこで、全会衆は主がモーセに命じられたように、その人を宿営の外に連れ出し、石で打ち殺した。」

安息日は守っても守らなくてもよい日ではなく、守らなければならない日なのです。

さて今、私たちは 7 日目ではなく、主の復活された日、週の最初の日を聖日として守っています。聖霊が来られた日も週の最初の日、聖日です。新約の聖徒たちには聖日が安息日なのです。まとめると、

- ・土曜日の安息日は、神の創造の御業を記念する日です。
- ・日曜日の安息日は、イエス様の復活を記念する聖なる日です。
- ・日曜日の安息日は、聖霊なる神様がいらっしゃった日なのです。

ユダヤ人たちは旧約の下で、今でも土曜日を安息日としています。しかし、新約の時代は週の初めの日の聖日が私たちの安息日です。イエス様が世界を創造された日ではなく、イエス様が復活された日が私たちの安息日、それは聖霊が来られた日でもあります。ですから、この聖日を守れば神様は私たちを祝福されます。

（イザヤ 58:13、14 節）「もし、あなたが安息日に出歩くことをやめ、わたしの聖日に自分の好むことをせず、安息日を『喜びの日』と呼び、主の聖日を『栄（は）えある日』と呼び、これを尊（たつ）んで、自分の道を行かず、自分の好むことを求めず、無駄口を慎むなら、そのとき、あなたは主をあなたの喜びとする。わたしはあなたに地の高い所を踏み行かせ、あなたの父ヤコブのゆずりの地であなたを養う。――主の御口がそう語られる。」

それにしても驚くべき、祝福の契約ですね。

繰り返しますが、聖日は主の日です。私たちを神様に献げる日です。聖日に喜んで霊とまことにより礼拝を献げれば、主は私たちの人生に驚くべき祝福を与えてくださいます。

聖日にイエス様は、教会で私たちに会うために待っておられます。聖霊が教会に豊かに下

られて、私たちを包んでくださいます。ですから聖日をささいな日と思わないでください。
聖日、あなたも豊かに祝福されてください。

——— 労働と礼拝 ———

さて今まで、この第四戒は、安息日についてのみ述べられてきました。

しかし、それは半分だけの真実です。安息日と同時に、他の6日間のことについても実は、同じような重さで語られているのです。ですから、この戒めの

- ・第1は、(8節)「安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。」です。
- ・第2は、(9節)「六日間働いて、あなたのすべての仕事をせよ。」です。

人に対しての神様の意志は、6日間人は自ら働いて生きる事、そして7日目にはその仕事をやめて、神様を礼拝することです。

6日間の労働は、神様の目的を行うことです。それはそのまま、素晴らしい礼拝行為となります。又、安息日に行う礼拝は、これもまた最高に素晴らしい労働行為となります。」労働と礼拝とは、二つがつながって、初めて完全となります。

6日間、労働する者は、良き礼拝者になれるし、安息日に神様を礼拝する者は、良き労働者になることができます。6日間も、職場にて勝利できるのです。

一つの戒めへの従順は、他の戒めに従う力を与えます。つまり、労働は礼拝を生み出し、礼拝は人を労働するにふさわしい者に整えてくれます。

良く働く者は、良き礼拝を捧げる者なのです。

——— 安息日の礼拝に関して ———

さて、8節です。これは安息日礼拝に関しての、繰り返しますが、十戒の第五番目の戒めです。この所に示されている2つの意味について学びましょう。

- ・第1は、1週間のうち、7日目は安息日として休みなさい。という意味であり
- ・第2は、その日を聖く守り、神様と交わりなさい、ということです。

——— 休みなさい ———

今日（こんにち）は世界中で、役所、学校、会社は日曜日を休んでいます。「キリスト教は外国の宗教、自分とは関係がない」と言っている人も休んでいます。「安息日制度は人類文化の基礎である」とまで言われています。しかし、日本人は働くことを美徳とし、朝から晩まで、更に休日も取らず今まで働いてきました。

では、もしも日曜日を休まなかったら・・・どうなるのでしょうか？

——— 休みなさい（消極的な意味） ———

・第1に、休まないと、体を滅ぼします。私たちの健康を保てません。

鉱山で働いている方が、日曜日をつぶして働きますと、10 日目頃から事故が続出することです。又、日曜休日の制度を撤廃すれば、世界中の病院はすぐに満員になってしまうだろうとも言われています。

・第2に、休まないと、心を滅ぼします。忙しいとは、心を亡ぼすと書きます。人間なのに機械の様に忙しく働いては、心の平安が守られません。もちろん、ただ休んでいれば心が平安になるというわけではありません。あるお金持ちは、いつも枕の下にピストルを隠して寝ているとのこと。神様は、人間の心が、体が、霊が安息を必要としているので、神様のもとで「休みなさい」と、おっしゃっておられるのです。充電が必要です。 さて、

・第3は、休まないと、家庭を滅ぼします。働くばかり、忙しいばかりの生活をしていると、家庭の親睦が保たれません。お金、地位、名誉、こればかりのために、休むことを忘れて生活をしている人々の家庭はみじめです。

イエス様は次の様に言われました。「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」（マタイ 11:28 節）

日曜日、イエス様の所へ行き、体、心、そして家庭のすべての安息をいただきましょう。

さて、今までは休むという、どちらかと言えば消極的な意味について学びましたが、次に積極的な意味について考えて行きましょう。

——— 休みなさい（積極的な意味） ———

私たちは、安息日つまり、聖日を神様を賛美し、神様を礼拝し、神様と交わるために、取っておくべきです。日曜日ごとに休める人は幸せな人です。

しかし残念なことに多くの人は、その日を単なる楽しみの日、なまける日、ものぐさの日、寝てよう日にしています。神様のためではなく、自分の都合で過ごしているのです。神様から、離れて、好き勝手なことをしています。つまり、神様抜きで、安息を得ようとしています。本当は、神様抜きでは癒されないはずなのですが・・・。

英語でホリデーを休日と訳します。ホーリー・スピリットは聖霊です。日曜日は聖い日なのです。ですから日曜日の本来の意味は、聖日、きよい日です。

私たち人間の本当の安息は、神様の中にあります。しかし、罪が私たち人間から安息をうばっています。神様から引き離そうとしています。しかし、この罪を赦してくださる救い主イエス様は、私たちの罪のために十字架の上で死んでくださいました。この方の所に、罪の

重荷を全部下すならば、神様から安息が与えられます。ですから、私たち聖日の礼拝において心から、霊とまことを持って、この方と交わり、礼拝をすべきです。

(第三ヨハネ二節)「愛する者よ。あなたのたましいが幸いを得ているように、あなたがすべての点で幸いを得、また健康であるように祈ります。」

神様は聖日、神様のもとに来て、礼拝を献げる者に、三重の祝福を与えてくださいます。霊、魂(心)、体の祝福です。日曜日、この三重の祝福、安息を神様からいただきましょう。そして、私たちのすべてが満たされ、充滿して6日間の働きに向かいましょう。きっと、充実した勝利の週となるはずです。

イエス様は次の様に言われました。(マルコ 2:27、28 節)「安息日は人のために設けられたのです。人が安息日のために造られたのではありません。ですから、人の子は安息日にも主です。」 私たち人間が最高に素晴らしい人生を送るために、体、心、霊が完全に生かされて、充実して生きるために、そんな1週間を送るためにも、聖日を守る事はどうしても必要です。聖日は神様からの私たちへのプレゼントです。このプレゼントしっかりといただきましょう。この恵みがすべての人々に、そして私たちに与えられていることに感謝しましょう。

だから、「安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。」(出エジプト 20:8 節)

「安息日は人のために設けられたのです。」(マルコ 2:27 節)

安息日を守ることをささいなことと考えてはなりません。神様からの恵みのプレゼントいただきましょう。

一人の青年が教会に行くようになりました。でも何か、毎週ため息をつきながら、行くのです。母親が言いました。「そんなに大変なら、もうやめなさい」彼はハッとして我に返り、次の週からはニコニコしながら「行って来ます。」やがて、母親が聞きました。「教会ってそんなにいい所かい・・・。」皆さん。ニコッと笑って礼拝に行きましょう。必ず奇跡が起こります。